

冒頭で一人のメンバーが持ち込んでくれた議題について話し合いました。

理解していると誤解してしまったり、辻褃の合っていない部分を読み飛ばしてしまったり、気付くほどの余裕が持てなかったりとそれぞれの要因が重なり合うと、思いもよらない様な出来事が起こるのだと思いました。(それはある意味で必然的に起こったことなのだと思います)

関わっていきこうとは思いつつも、自分に余裕がない中で、そこに何のメリットを見出して行動するのかという問いかけを頂きました。

ミーティングでは多種多様な人間社会との関わりの練習という意味でも、関わっていくことに良さがあることが陽子さんから伝えられましたが、一方で、やらないという人が一人くらい居ても良いという言葉も頂いて、私達にお互いの多様性(個性)を尊重してほしいという思いが伝わりました。

私は10年プロジェクトの中で陽子さんに孤独を感じてほしくない(気付くのが陽子さんだけという状態は嫌だ)と思っています。

こういった"思い"だけを元に行動することは、私の中では100%善とは思っていないのだけど(それはどんな場面でも、どこかに冷静な頭を残しておくことは大事だと思っているから)、そういった気持ちでの行動もいいんじゃないかと言われたことは嬉しかった。

フィードバックコーナーでは、一人のメンバーに対して、ネガティブを出さないようにしているのではないかという話がありました。

自己研鑽に励むこのコミュニティの中では、ネガティブなものを出さないようにしようという気持ちが生まれるのも自然なことだと思いました。

一方で、出すことで不思議と少し方向が変わるということも実感しているので、10プロの中の状況を細やかに見て、相手の詰まりを出せるように促せる付き合いもしていけたらと思いました。

もう少しで合宿という、対面でしっかりと向き合う時間が取れる特別な時が来ます。

その場だからこそ熱く話し合えるような話題をお互いに持ち込んで、その後のオフラインの活動がより活発になるような時間にしたいです。

(A.S 40代女性 北海道)